「アルゼンチン空手遠征記：南米で血が騒いで」

極真会館　大石道場　清水南道場　杉本龍哉

平成 27 年 10 月 27 日

自分にとって初の空手海外遠征の日となりました。

成田空港からドバイ空港まで 12 時間、ドバイ空港からブエノスアイレスまで 18 時間、計 30 時間の飛行機の旅。

静岡駅出発

平成 27 年 10 月 28 日

19:45 ブエノスアイレス空港着

ルイス先生とお弟子さんがお迎え

21:30 プラザホテル到着。1908 年築の 100 年以上続く高級ホテル

ホテルのレストランで 700 g の初サーロインステーキ

とりあえずのビールと食後のコーヒー・ケーキで満腹

24:00 就寝

ホテル・レストランの

サーロインステーキ

平成 27 年 10 月 29 日

9:00 朝食

13:00～16:00 大石範士、ルイス先生、橘先生と 4 名で「初心道場」で稽古

「初心道場」に入ってすぐに感じたことは、道場の匂いが日本と同じ匂いということでした。道場生から発する汗、努力、空手に対する気持ち、それが道場の雰囲気そのものでした。

こちらの道場名は全て漢字 2 文字を頭に付けているそうです。その他に「村正道場」「地獄道場」「観空道場」などあるそうです。

範士はルイス先生に観空、橘先生と私に征遠鎮を御指導。私も明後日の南米選手権にて演武することとなりました。

20:00～アルゼンチンタンゴショーの観覧。会場の「PIAZZOLLA」は格式の高いところで、そのような場所でディナーをいただきながらの観覧。最高です。生バンドによる演奏、6 名のプロダンサーによるタンゴ、2 名のボーカル。どれをとってもプロ中のプロです。その中でも、際立つダンサーがいるものです。

観覧終了後にダンサーの方と記念撮影。思わずその気になってポージング(反省その 1)

ショーの感動にひたりながら、徒歩でホテルへ。23:30 着。すぐに就寝

反省その 1

平成 27 年 10 月 30 日

9:00 朝食

範士は部屋でご自身の稽古。その合間に 4 名で市内観光。ブエノスアイレスの街並みを歩いて外国人になった気分にひたっていると、街角のおじさんに「ニーハオ」と声を掛けられました。「日本人だよっ！顔見りゃわかるだろ！！」

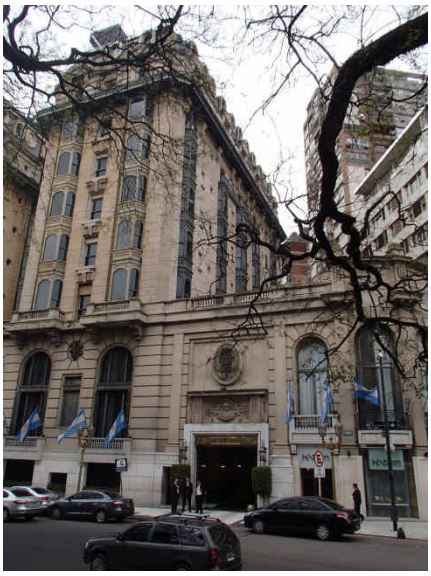
14:00～カフェでランチ。店内のギャルソン（ウェイター）は皆、年配の男性で、雰囲気が良いです。お客さんのもてなしに余裕があります。こんな人間性を身につけたいです。

20:30 ホテルのレストランでランチ。またもやサーロインステーキ。橘先生、さすがの大食漢でぺろりとたいらげますが、範士と奥様、私と溝田さんは 1/2 ずつでほどよく。

さすがにアルゼンチンの名物、ステーキは毎日食べても、うまいっ！！

23:00 部屋に戻り、バスルームに湯船をつくり、ゆっくり半身浴。やはり日本人は湯船ですね。

明日はいよいよ南米選手権大会。



宿泊先：プラザホテル外観

ブエノスアイレスのオベリスク（記念碑）

平成 27 年 10 月 31 日

9:00 朝食

部屋で橘先生と型の稽古

12:00 ルイス先生の車で、会場へ移動

14:30 大会開始　5 か国の選手団により入場行進～試合開始に先立ち、プロダンサーによるアルゼンチンタンゴの披露。開催国の文化を伝えることはいいことだなと感じました。

範士のあいさつにより開会式を締める。

大会の中、10 試合ほど主審をさせていただき、気迫に満ちた試合を間近に感じながらの主審、いい経験になりました。

各クラスの決勝戦を前に、演武開始

橘先生と私の征遠鎮、集中して出来、自分の出せる力を出しきったと思います。

橘先生の 3 方板割り。ルイス先生の観空、バット 4 本折り、自然石割り。

記念にサイン入り自然石をもらってみました。

凄いパワーです。

自然石割り後

橘先生と征遠鎮

最後の演武、大石範士の五十四歩、4 方割り×3 か所です。スタンディングオベーションで終了しました。

大会終了後のトロフィー授与式では、他選手の受賞を自分の事のように喜び合う姿が印象的でした。日本ではなかなかお目にかかれない光景でした。

範士、橘先生、私にも記念の楯をいただき、嬉しさのあまり、気持ちがおさまらず表彰台の上ではしゃいでしまいました。（反省その 2）　橘先生と範士までも。（下写真参照）

大会終了後は様々な方々に写真、サインを求められ、そんなことは初体験で、非常に一体感のある大会だったと感じました。

明日は本日の出場選手を含めてのセミナーです。本大会で知り合えた空手仲間との稽古、楽しみです。

→

反省その 2

平成 27 年 11 月 1 日

7:00 朝食

8:00 ルイス先生の車で、セミナー会場の「稽古道場」へ移動

「稽古道場」は 1 階はバイクなどのトレーニングルーム、2 階にマット敷の道場、250kg のサンドバック、その奥に本格的なウェイトトレーニング機器。これらのほとんどがルイス先生の自作とのこと。凄いです。

さらにその奥に体育館なみの広さを持つ稽古場。本日の会場はここです。

11:00～13:30 色帯～黒帯まで。基本、移動、初級の型まで。実戦活用の説明を含めた範士の指導。色帯の道場生も不動立から返事、気合いまで真剣に取り組んでおり、日本に持ち帰る必要あり、と感じました。

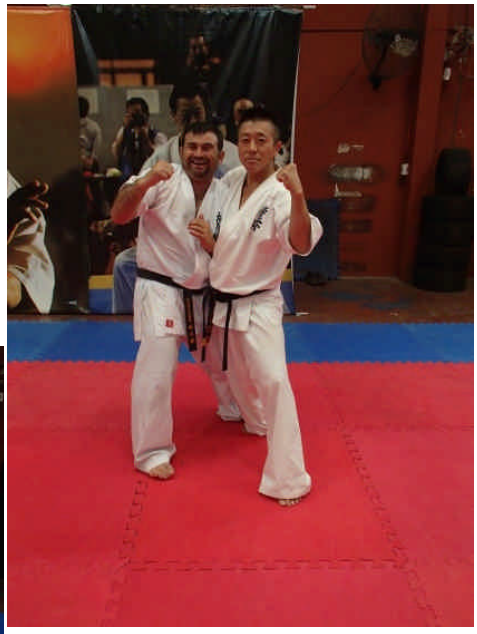
16:00～18:30 黒帯。型、太極Ⅰ～五十四歩まで。私も最後尾でやらせていただきました。最後の観空と五十四歩はルイス先生と他 1 名の先生で行いました。特にルイス先生の型は 4 年前に来日された際に大石範士から御教授されたままの型を遂行しており、その純粋な稽古姿勢に対し範士も感動しておられました。

5 時間に及ぶセミナー終了後は、昨日以上の写真撮影、サイン攻めにあいましたが、それは一緒に汗を流した者同士の心のふれあいで自然な行為であり、言葉は通じませんが、それ以上に通じるものがあると感じました。海外の稽古って、いいです！余分な言葉はいらないですから。

終了後、ルイス先生の車でホテルへ。その途中の出来事。

ブエノスアイレスを本拠地としたアルゼンチンプロサッカーチーム「ボカ・ジュニオルス」（マラドーナが所属していたチーム）が同日夜のホーム試合で「アルゼンチン 1 部リーグ 2015」の年間優勝を決めていたのです。帰路の途中、道路上で大勢のサポーターが旗を振り、練り歩き、ホーンが鳴り響いていました。これを見た私はまたラテンの血が騒ぎ車窓を開け、身体を乗りだし両手を振ったら、サポーターが追いかけてきました。フーリガンに襲われるところでした。（反省その 3）

本日は最後の夜、同室の橘先生と「食後にこっそりホテルのバーでワインでも」「いいっすね！」と言ったきり、部屋のベッドに横になったとたん、2 人とも爆睡。1 時間後に目が開きましたが、心と身体は動かず。そのまま翌朝へ。



気の合う南米の道場生

平成 27 年 11 月 2 日

8:00 朝食、本当によく寝ました。心地よい朝を迎えましたがもう最後の日なんですね。

10:00～大石範士を含めた 5 名で市内観光、お土産購入。私は以外にも赤のポンチョとハットを範士に買っていただきました。帰国後の行事にはこれを着てくるように言われましたので、押忍。

範士からのプレゼント

15:00～ルイス先生の車で空港まで。途中のカフェで範士とルイス先生らは来年の世界大会の確認を。

21:30～ブエノスアイレス空港出発。ルイス先生、お弟子さん、奥様の優しいまなざしに見送られて、寂しい気持ちで、「帰りたくない病」が発生。

帰りは 27 時間ほどの飛行機の旅。短く感じました。心はまだアルゼンチンにいるような気持でした。

平成 27 年 11 月 4 日

17:20 成田空港着

22:00 清水駅到着

21 年前、34 歳当時、息子のためにと始めた極真空手で、このような経験ができるとは夢にも思っていませんでした。自然に普通に大石範士の教えに沿って、自分なりに続けてきたことが貴重な経験をさせていただいたことにつながりました。これからも今まで通り、不変の気持ちで極真空手に取り組みたいと強く感じています。南米の道場生に負けないよう、母国日本の極真空手を。

最後になりますが、色々な話をして頂いた奥様、ずっとサポートしてくれた通訳の溝田さん、同部屋で楽しく過ごしていただいた橘先生、そして大石範士に、表現できないくらいの感謝の気持ちで一杯です。「経験はすることも大切だが、それから何を学ぶかが最も大切である」ことを肝に命じ、少しづつですが恩をお返し出来たらと思っております。押忍